



2019年 3月8日 金曜日
(平成31年)

知・技の創造

ものづくり大学発

▷43◁

平成が終わることになっています。東京タワーは、昭和33年に竣工した総合電波塔です。平成の時代には、景観について多くの議論が交わされました。多数の地方公共団体に よって景観計画が策定され、16年には景観法が公布されました。また、首都高などの高度経済成長期につくられた建造物がしばしば批判されました。美しい建造物、保全すべき景観とはどのようなものなのでしょう。

筆者は、東京タワーへの眺望景観について研究しています。東京タワーはどのように眺められているのでしょうか。

平成に世に出た東京タワーに「タオトン」(原作リリー・フエーのマンションに住む少年で、廃れた印象のあった東京タワーが東京らしい美しい景観として捉えられるようになった。)

関する作品を紹介いたします。ランキ、監督松岡錠司)が、雨に濡れた東京タワーを映画「ALWAYS三丁目では、上空を周遊しながら撮る」の夕日(原作西岸良平、監影されたタワーが、東京の中で捉えられています。)

「監督山岸貴」では、下町に心に刺さっているかのように、漫画「部長島耕作」(著弘

大竹由夏 建設学科助教

美しい景観を見つめる時代に



おおたけ ゆか 建設学科助教。昭和57(1982)年兵庫県生まれ。平成27(2015)年筑波大学博士後期課程修了。博士(デザイン学)。一級建築士。筑波大学博士特別研究員を経て平成29(17)年4月より現職。

から見上げる建設中のタワーが映し出されています。再現されています。映画「東京タワー」(著江京タワー、オカんとボクと時 國香織)では、タワーの見て魅力的に表現されること

作品にも描かれているように、近年の東京タワーは、高層ビルからの眺望が注目されています。しかしながら、先に紹介した景観形成基準においては、増上寺や芝公園、私の社交差点など、地上からの東京タワーへの眺望を保全する内容であり、高層からの眺望を保全するものはひとつもありません。

実際の都市において、高層ビルからの東京タワーへの眺望は、どのようなものがあるのでしょうか。昭和のオリピック開催に向けて国の威信をかけて建設された首都高は、ただただ醜い建造物なの